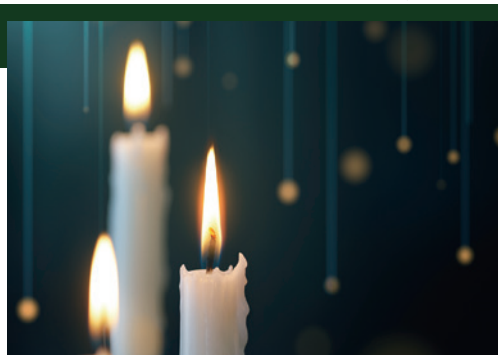
クリスマス特集 すべての人を照らすまことの光



幼稚園 Kindergarten

神様からいただいた賜物

幼稚園保護者　西澤 くるみ

「ページェントの役をそろそろ決めるみたい。」　そう言いながら息子たちが学校から帰って来るとクリスマスが近づいているんだなと毎年感じます。6年生の長男、3年生の次男は幼稚園では羊飼い役をやりました。今年、年長の三男は兄たちと同じ羊飼い役を選ぶでしょうか？　初等部での六年間、何にするか考え続けた長男は、最終学年の今年、何の役を選ぶでしょうか？

二年前、当時1年生だった次男が「羊役に応募してきた」と学校から帰ってきた際、私は次男を叱ってしまいました。悲しい顔をした息子を前に、私の「もっと目立つ役をしてもらいたい」という自分勝手な思いを反省した記憶があります。幼稚園では、子どもたちが役にないものを希望しても先生方は何とかできないかと一生懸命考えてくださいます。一人ひとりが大切な存在であり、神様に愛され育っていることを感謝しております。

コロナ禍にあり日常生活は変わってしまいましたが、一人ひとりに与えられた賜物は変わることなく今年もクリスマスが近づいてきます。私たちを見守ってくださる神様に感謝し、イエス様のお誕生をお祝いしたいと思います。

すべてを照らすまことの光

幼稚園教諭　石垣 李沙

幼稚園では毎年、アドヴェントに入る前に保育者全員でその年のクリスマスについて研修の時をもっています。受胎告知について、3人の博士について、などテーマを決めて聖書研究のように進めることもあれば、大学の先生や牧師を招いてメッセージをいただくこともあります。そのことで保育者一人ひとりの信仰が励まされ、支えられていることを感じています。また、そこでの分かち合いから、その年のクリスマスに子どもたちと大切にしていきたいことを考えていきます。以前、幼稚園のページェントで年長児が「地球のどこかで」という讃美歌を歌ったことがあります。チャイルドファンドジャパンで繋がっている子どもたちのことや、台風の被害にあった方々のことなどを覚え、子どもたちと共に祈り、賛美をささげました。

「私たちがすんでいる　この広い地球　神様はどんな人も 愛しておられる だけどその愛を知らないで 過ごしている人々がいる　イエスさまを伝えよう　イエスさまを伝えよう この小さな私たちにも　何かできるはず」(新生讃美歌390番) ※

1人でも多くの人が暗闇に輝く希望の光を感じ、喜びのクリスマスを迎えられるようにと願います。

※日本パブテスト連盟使用許諾済み